

令和4年白老町議会全員協議会会議録

令和4年 2月18日（火曜日）

開 会 午前10時19分

閉 会 午前11時21分

○議事日程

1. 白老町商業・観光振興計画の策定について
-

○会議に付した事件

1. 白老町商業・観光振興計画の策定について
-

○出席議員（14名）

- | | |
|-----------|-------------|
| 1番 久保一美君 | 2番 広地紀彰君 |
| 3番 佐藤雄大君 | 4番 貳又聖規君 |
| 5番 西田祐子君 | 6番 前田博之君 |
| 7番 森哲也君 | 8番 大淵紀夫君 |
| 9番 吉谷一孝君 | 10番 小西秀延君 |
| 11番 及川保君 | 12番 長谷川かおり君 |
| 13番 氏家裕治君 | 14番 松田謙吾君 |
-

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

- | | |
|---------|-------|
| 副 町 長 | 竹田敏雄君 |
| 産業経済課長 | 工藤智寿君 |
| 産業経済課主幹 | 鶴澤友寿君 |
| 産業経済課主幹 | 久末雅通君 |
| 産業経済課主任 | 鈴木領祐君 |
| 産業経済課主任 | 水内直人君 |
| 産業経済課主任 | 片岡良介君 |
-

○職務のため出席した事務局職員

- | | |
|-------|--------|
| 事務局 長 | 本間力君 |
| 主 査 | 八木橋直紀君 |

◎開会の宣告

○議長（松田謙吾君） ただいまより全員協議会を開催いたします。

（午前10時19分）

○議長（松田謙吾君） 本日の全員協議会の案件は白老町商業観光振興計画策定についてであります。担当課からの説明を行い不明な点などの質疑を行った後、内容に対する意見等がありましたら協議を行います。それでは白老町商業観光振興計画策定について説明を求めます。

竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 本日はお忙しいなか定例会2月会議に引き続き貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。本日説明させていただく白老町商業観光振興計画につきましては令和2年度内での策定を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症に関する事業対応などにより作業が遅れ令和3年度での策定作業となりました。昨年10月と今年1月の策定委員会で意見交換等を行いながら素案をまとめてまいりました。本計画の策定並びに議会への説明が遅れましたことにお詫びを申し上げます。この後担当から計画の内容等についてご説明をさせていただきます。議員の皆様には忌憚のないご意見等を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） ただいま竹田副町長からお話がありましたとおり白老町商業観光計画、前回の題決めといいますか前回の計画につきましては平成28年3月に策定され平成31年度までの4年間の計画でございました。このたびの2期目となります本計画は令和2年度策定を予定しておりました。策定準備をそのように進めておりましたがウポポイ開業に伴う観光インフォメーションセンターのロングランイベントの対応や新型コロナウイルス感染症の対応のため衛生対策や経済対策に追われて遅くなったということでこちらについては作業が遅くなり大変申し訳ございません。改めて今年度より策定に向け準備してきたところでございます。遅くなりましたが素案を固めさせていただきました。まだまだコロナ禍の中であり先行きが不透明な昨今ではありますが現状と課題を把握し先を見据えた施策の立案、実施により商業及び観光振興を推進するため素案を作成させていただいたものでございます。この後本計画策定の経過及び今後のスケジュールと本計画の内容について担当より説明させていただきます。議員皆様のご意見をいただき成案化してまいりたいと考えておりますので何卒よろしくお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 鈴木産業経済課主任。

○産業経済課主任（鈴木領祐君） それでは白老町商業観光振興計画につきましてご説明させていただきます。最初に配布させていただいておりました資料についてご確認です。資料については全部で6点ございまして資料1として本計画案の策定経過とスケジュール。別紙で前計画の実績評価を添付しております。資料2といたしまして今回の計画策定委員会の委員名簿。資料3として計画案の本編。資料4として計画案の概要版。資料5と資料6といたしましては参考資料として添付い

たしてありますが、第6次総合計画と第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の関係部分の抜粋版を添付しております。資料1から順にご説明させていただきますが計画案を読み上げますと長くお時間を頂戴することになりますので計画の内容につきましては計画案の概要版を中心に説明させていただきます。

まず資料1の第2次白老町商業・観光振興計画案の計画及びスケジュールについてです。今回の第2次計画の策定にあたりましては令和2年8月に産業厚生常任委員会においてご説明しておりました時期よりおよそ1年遅れとなりましたが令和3年10月に第1回の策定委員会を開催いたしました。本年1月には第2回の策定委員会を開催しております。2月からはパブリックコメントにて意見募集を行っており、本日この場にてご説明をさせていただきます頂戴したご意見から修正を加えた上で3月に開催を予定する策定委員会にて作成したいと考えております。次の資料を御覧ください。平成28年に策定しておりました前計画の実績評価となっております。資料の一番下に達成率の算出方法を記載しておりますが、計画に掲げておりました目標とその実績について達成率から評価しております。全体といたしましては5段階評価のうち3.4と真ん中より上の達成率であったと考えております。

続いて資料2の委員名簿を御覧ください。産業経済課を事務局といたしまして11名の委員の皆様にお引き受けいただいております。青年会議所や商工会青年部など若い方の視点や地域おこし協力隊を卒業された方で、町内で起業されている方々の外部の視点や、町内の魅力を発信する活動をされているガイドセンターなど今回の計画策定にあたりご意見をいただいております。

次に資料3を御覧ください。本計画の計画案です。計画案の内容につきましては次の資料4として添付しております概要版にてご説明をさせていただきますが、ここでは目次から計画の構成をご説明させていただきます。資料3を1枚めくっていただきまして左側に目次がございます。第1章から第5章までで構成されておりました第1章では計画策定の趣旨といたしまして(1)、計画の目的、(2)、計画の位置づけ、(3)、計画の期間を定めております。第2章では白老町内における商業と観光の現状と課題といたしまして(1)、観光入込客数、(2)、各地区の特色、(3)、商業・観光事業者を取り巻く環境、(4)、イベントの開催状況、(5)、周知PRの現状、(6)、観光客の消費単価と経済波及効果、(7)、商業と観光に関する課題について記載しております。第3章では観光施策の展開といたしまして(1)、将来像、(2)、基本事業方針、(3)、具体的戦略を記載しております基本事業方針と具体的戦略では方針1、魅力ある観光地の形成、方針2、魅力ある地域資源の活用、方針3、訪れやすいまちづくりの整備・充実、方針4、新たな誘客への取組、方針5、商工業の活性化、方針6、中小企業振興と創業支援、方針7、産業連携の推進と投資意欲の醸成、方針8、商港区の利用推進の各方針とその具体的戦略について定めております。第4章では計画の推進体制といたしまして(1)、本登録を目指す地域DMOを中心とした体制、(2)、地域内の各団体・組織との連携・協力体制の構築・運用、(3) 近隣自治体との広域連携、(4)、アフターコロナを見据えた取組といった推進体制を記載しております。第5章では計画の進捗管理・評価方法といたしまして(1)、計画の進捗管理、(2)、計画の評価方法について定めております。また最後に資料といたしまして計画策定委員会の開催状況等について記載をしており、パブリックコメントと3月に開催を予定する策定委員会の記録をもって完成させたいと考えているところです。

次に資料4の計画案概要欄を御覧ください。資料4の1番、目的です。ウポポイの開業効果を全町に波及させ関係団体や事業者と連携することで観光客の町内周遊による地域活性化を図り新型コロナウイルス感染症の拡大等により深刻な影響を受けた商業及び観光振興を推進するため策定するものであるとしております。

次に2番、計画期間です。第6次白老町総合計画と連動させることを鑑み、令和4年度から令和9年度までの6年間としております。

3番、将来像です。いずれも総合計画にて定めているものですがまちの将来像は共に築く希望の未来、しあわせ感じる元気まち。めざす姿は観光分野で、自然や歴史、食、温泉など白老の魅力を求め、何度も訪れたいくなるまち。商工業分野で商店街に多くの人が集まり、にぎやかで活気のあるまちとしております。

続いて4番、基本事業方針と具体的戦略です。方針1、魅力ある観光地の形成。具体的戦略は白老観光協会が地域DMOの取得を目指すほか、関係機関との連携により町内の周遊性を高めるための施策を展開としております。方針2、魅力ある地域資源の活用。具体的戦略は豊富な食材やアイヌ文化を取り入れた商品や飲食メニューの開発・提供、自然景観の保存・整備・温泉資源の利活用としております。方針3、訪れやすいまちづくりの整備・充実。具体的戦略は観光インフォメーションセンターを拠点とした観光情報の発信やガイド人材の育成、交通アクセスの整備、民間事業者の参入促進。外国人観光客増加を見据えた言語対応やキャッシュレス化、障がいのある方も訪れやすい観光地のバリアフリー化としております。方針4、新たな誘客への取組です。具体的戦略はマーケティングの視点をもったターゲット設定をし、観光客動向調査の実施等により観光ニーズを把握。旅行商品の販売や教育旅行の誘致に取り組むためのアクティビティや体験プログラムの充実としております。次のページにまいりまして方針5、商工業の活性化です。具体的戦略は購買力の流出抑制や来訪者の増加を見据えた町内消費の拡大を図る既存商店街活性化策の実施としております。白老駅北観光商業ゾーン基本計画に基づいた振興策等による商工業活性化と稼ぐ力の創出としております。方針6、中小企業振興と創業支援です。具体的戦略は事業者の経営安定を目的とし関係機関との連携による各種融資制度や助成制度の充実化と創業支援計画による創業支援意欲を喚起する支援メニューの拡大促進としております。方針7、産業連携の推進と投資意欲の醸成です。具体的戦略は創業支援計画に基づいた総合的なサポート体制による新規創業者の輩出・支援としております。立地企業連絡協議会等による異業種間の産業連携や地域DMOによる地域内連携による経済循環の促進としております。方針8、商港区の利用推進です。具体的戦略はウポポイ等町内の魅力をセールスポイントとしたクルーズ船の誘致展開による港湾利用の促進としております。基本事業方針と具体的戦略については第6次総合計画に掲載のものを踏襲しておりますが記載のとおり一部改変としておりますのは方針4、新たな誘客への取組の部分においてマーケティングの視点を持ったターゲット設定という点を追加しております。具体的戦略については計画案の本編にもう少々書いてありますのでここで資料3の9ページを御覧ください。

資料3、9ページ真ん中の(3)、具体的戦略です。方針1、魅力ある観光地の形成のところでは主な課題といたしまして地域DMO運営に携わる人材確保、道の駅整備に係る財源というところを課題としており具体的戦略の中身といたしましては地域DMOの本登録など観光協会の動きや交流

促進、バスやレンタサイクルの活用などをあげております。次のページ、方針2、魅力ある地域資源の活用です。方針2-1といたしまして課題をPRの実施及び支援販路拡大の支援、地域ブランドの高付加価値化としておりましてイベントやアイヌ文化、陣屋資料館や芸術文化といったところの促進をあげております。方針2-2といたしまして課題が町内温泉施設の利用促進PRの実施及び支援、インクラの滝やアヨロ鼻灯台等の安全確保に係る整備実施、自然景観保全活動の継続実施としておりまして温泉や自然景観についてあげております。方針3、訪れやすいまちづくりの整備・充実といたしまして主な課題に観光情報ホームページからの情報発信頻度の増加、観光ガイド事業の継続実施に向けた事業PR支援、観光ガイド人材の育成支援、初めて来た方にもわかりやすい観光情報の提供としておりホームページのリニューアルやガイド人材の養成と地域おこし協力隊の活用といったことをあげております。方針3-2といたしまして外国語対応の観光案内が可能な体制の維持・拡大、町内店舗・事業者のバリアフリー対応内容の周知、町内店舗・事業者のバリアフリー対応促進の支援を課題としており外国語対応やバリアフリー対応の促進をあげております。次のページです。方針4、新たな誘客への取組です。方針4-1といたしまして観光消費動向調査の継続実施、経済波及効果及び観光消費額測定の継続実施、町内観光地点の人流データの把握・分析を課題としており観光客の消費動向や人流の動きを調査しマーケティングの視点から新たな催しを検討することなどをあげております。方針4-2といたしまして外遊びの提案・PRの実施です。屋外レジャーに関する安全面での普及啓発の継続実施を課題としており、コロナ禍もあって増えている屋外レジャーについてをあげております。方針4-3といたしまして教育旅行取扱事業者への周知・PR、営業活動の継続実施、札幌圏及び北関東圏、他地域への営業活動の継続実施、アンケート調査・分析の継続実施を課題とあげており、コロナ禍で大きく変化する教育旅行誘致への対応をあげております。次のページにいきまして方針5、商工業の活性化です。方針5-1といたしまして町内消費の拡大を図る施策に関する財源確保を課題とあげており町民に向けた消費拡大策をあげております。方針5-2、民間活力導入区域の事業者未決定時点での利活用策、活性化イベントの継続開催に係る財源確保を課題としており白老駅北観光商業ゾーンについてをあげております。方針6、中小企業振興と創業支援です。各機関と連携した支援・相談体制の確立・維持、新規事業者の事業周知・PR支援を課題としており、既存事業者や新規創業者に対する支援をあげております。方針7、産業連携の推進と投資意欲の醸成です。7-1といたしまして各機関と連携した支援・相談体制の確立・維持、新規事業者の事業周知PR支援を課題としており、こちらも同様に新規創業者への対応などをあげております。次のページです。方針7-2、異業種や同業者による連携促進の実施、地域DMOによる地域内イベント開催時の事業者参加促進を課題としており、事業者同士での連携促進についてをあげております。方針8、商港区の利用促進です。ポートセールス、誘客事業活動の実施、関係機関・団体と連携した受入体制の構築を課題としており、クルーズ船の誘致についてあげております。

この後、資料4に戻っていただきまして資料4の5番、本計画における目標値についてです。第6次白老町総合計画と第2期白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略における目標値を準用しているものと、本計画独自に定めた目標値の2種類をあげており準用している目標値については7項目、本計画独自の目標値は3項目ございます。まずおもてなしと思いやりの心溢れる受入体制が充実し

ていると感じる町民の割合ですがこちらについては現状値48.8%から54.8%を目標値としております。観光入込客数につきましては現状値の177万4,000人から350万人を目標値としております。観光消費額ですが現状値96億円から160億円を目標値としております。次のページの上にもまいりまして経済波及効果は現状値の120億円から179億円を目標値としております。新規起業誘致や地域資源を活用した商品開発が推進されていると感じる町民の割合は現状値44.3%から50.3%を目標値としております。新規創業支援件数につきましては現状値4件のところ目標値延べ12件としております。クルーズ客船、大型貨物船の寄港回数につきましては現状値0隻から目標値を4隻としております。本計画独自の目標値といたしまして白老町のファンづくりといたしまして2回目以上ご来町される観光客の割合を現状値53.2%のものから目標値70%としております。ホームページのアクセス数については現状値35万件のところを目標値100万件としております。なおホームページについては今年度内にリニューアルを予定しております。次のページにもまいります。白老観光協会のフェイスブックページのフォロワー数をあげております。こちらについては現状値829人から目標値を3,500人としております。

次に6番、計画の推進体制です。(1)、本登録を目指す地域DMOを中心とした体制といたしまして白老観光協会や白老まちづくりDMO戦略協議会を体制としております。(2)、地域内の各団体・組織との連携・協力体制の構築・運用といたしまして記載のような団体との連携、協力体制ということ掲げております。(3)、近隣自治体との広域連携といたしまして記載のとおり既存である協議会等を活用しながらの体制を考えております。

続いて7番、計画の評価方法です。計画期間の中間年度となる令和6年度と最終年度である令和9年度を評価年度といたしまして、産業経済課で集計した各目標値の進捗状況をもとに評価年度ごとに関係団体及び町内事業者等にて組織する第2次白老町商業・観光振興計画評価委員会が達成状況及び実施内容から評価を行いホームページにて結果を報告します。また評価年度以外においても目標の進捗管理を行うとともにPDCAサイクルによる改善を適宜行い、計画期間内の目標値到達を目指すものとしております。説明については以上となります。どうぞよろしく願いいたします。

○議長(松田謙吾君) ただいま説明がありましたがこの件について特に確認しておく必要のある方はどうぞ。

5番、西田祐子議員。

○5番(西田祐子君) 今回の説明でどこが悪いとかという話ではなくてぜひ聞いていただきたいと思うことがあります。こちらの説明で方針3のところを訪れやすいまちづくりの整備・充実というところで、例えば私は観光地に行くときにホームページにアクセスします。そうしましたらそのホームページで何を見るかということ、行きたい場所と移動するための交通機関というものを必ず調べます。だから北海道から例えば本州に行く時の飛行機やJRは分かりやすいのですが、現地に行ったときに目的地は1個だけではないはずなのです。何箇所か行きたいと思うのです。そのときに滞在時間を何時間にすることかということ考えるのです。行きたい場所から行きたい場所への移動手段が明確であれば、例えばここからここまで距離が5キロメートルですとか8キロメートルですと書いていてタクシー料金だったら大体いくらぐらいかかりますとか、それからだったらほ

かにこのような交通機関がありますとかというと、だいたいそこにいる滞在時間を最初は1時間か2時間と書いていても4時間ぐらいにしてみようかとなるのです。やはり旅行客は来る前に必ずホームページを見てそういうこと考えるのです。そしてこのDMOをやっているようなところの観光地というのはそういった業者さんともきちんと連携してタクシー代ならこのくらいかかりますよと。それ以外の交通機関でしたらこういうルートで行けますよと。そうすると1日のうちに大体この程度の朝何時の列車でこう入ると大体そのぐらいのところを周ってこういうようなところで見られますよという大雑把ですけどホームページ上で大体そのような情報を得られるわけです。やはりそこまでやらないと白老町の滞在時間がウポポイだけで終わってしまって、せっかくこのような素敵なものをこれから計画しようと思っても滞在時間が短くなってしまって何の意味もなくなってしまうのでその辺のお考えだけ伺わせてください。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 今、西田議員からいただいたご質問、ご意見は本当に貴重だと考えてございまして交通機関、我々も今、例でお話いただきましたけれども観光地に行ったときにどのように移動しようかと考えられるのは皆さんとのどなたも一緒だと我々も思っています今それぞれ地域公共交通もございましてそういった時刻表であったりとかそれから今ご意見の中にあっただ部分ではモデルコースのような形を設けるというのも一つ例えばこの地区をこういうふうに周ってこれくらいのタクシー料金がかかって1日過ごせますよというようなウポポイなり白老のまち中を周って虎杖浜の方へ行ったりとかというようなモデルコースを数パターンといいますかそういったものをホームページに掲載することによって観光客の皆さんの参考の一つになるのではないかなと思いますので、その辺は今ホームページの改訂を観光協会が行っておりますのでその辺も十分入れてやっていきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 5番、西田祐子議員。

○5番（西田祐子君） ぜひ前向きにしていきたいと思います。それとやはりこの計画の中でいろいろな業種の人たちが入るわけです。例えば社台に行ったら馬を見たいとか、虎杖浜に行ったら灯台を見たいとかそれぞれの観光客の目的というのが年齢ごとに違ってくるのではないかなと思うのです。ですから私は若い時はこういうところに行きたかったのだけれども年を取ってきたらこういうところに行きたいというのがあるのです。そういうのもDMOをやってらっしゃるところは家族連れにはここ、高齢者向けはここ、若いカップルはここというような魅力あるものをつくっているのです。そこの知恵はいったいどこから来るのか分からないのでやはりそういうような知恵を出してくれる人材を少し考えて集めていただければと思います。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 先ほどと同じようなご答弁になりますけれどもやはりモデルコースはそれぞれのターゲットに向けたという部分になってこようと思います。数パターンといいますか、いろいろな食であったり温泉であったり自然という切口という部分も含めながらまた年齢層の部分もありました。そういうことも含めて考えていきたいと思っております。それから人材の部分は今観光協会にも昨年残念ながら辞められた方が来てまた新しい方も来られて活躍されておりますのでそういった方や地域おこし協力隊の皆さんのご協力、知恵を拝借しながらいろいろなコースも含めて

いろいろなご意見を頂戴しながらつくり込んでいきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 13番、氏家裕治議員。

○13番（氏家裕治君） 簡単に教えてもらいたいのですけれども7ページの将来の目標値の中の新規創業支援件数の延べという部分があるのですけれども現状値が4件になっています。この4件というのは当時の政策があったものですから頭の中で整理できなかったのですけれども新規創業者に300万円の支援金を払ったことがありました。それがここに入っているのか。その後は幅広く支援のお金を使ってもらいたいということで1件あたり100万円に減らしました。そこの関係性というか時代の流れみたいなものをこの4件の中でどういった形になっているのかをお聞きしたいのです。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 今、氏家議員がおっしゃられたとおり当初は300万円という形で支援させていただきましてより幅広く新規創業の支援をさせていただきたいということで1件あたり100万円という形のものでやらせていただいております。当初の1回目の商業観光振興計画ができた当時の部分でいいますとこちらに書いてあるとおり4件という形で進んでおりましたが、令和2年度現在で21件が実際に新規創業の支援を受けて事業を皆さんがやられているという状況になっております。

○議長（松田謙吾君） 13番、氏家裕治議員。

○13番（氏家裕治君） 確認です。その100万円の事業は幅広くこの事業を使っていただきたいということで100万円に制度改正をしてその効果としてはそれは間違いではなかった、それを広く多くの方々に使っていただいているという認識でよろしいですか。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） この創業支援を使っている事業者さんのほかに年間相当数が相談に来ております。条件に合致するとか途中でやはり事業が難しいという相談を受けた後に辞められる方も残念ながらいるという状況でございますが、こういう制度をすることによって相談なり実際にやられてご活躍されている方もいるということで考えますとある一定程度効果があったといいますかそのような押さえでいるというところでございます。

○議長（松田謙吾君） 13番、氏家裕治議員。

○13番（氏家裕治君） 私がお聞きしたかったのは新しく事業を起こすときには300万円というお金がすごく魅力的でした。それを幅広く皆さんに使っていただきたいということで100万円にしたときに二の足を踏む方々もいらっしまったのではないかと、逆にそれで無理してはじめられてうまくいかなかった方々も中にはいるのではないかと思ったりするものですから考えたのです。昨日、駅北チャレンジショップの関係もありました。ウポポイが開設して当初は本当に100万人という人数が来るのかと二の足を踏んでいたところが、ましてやコロナ禍の中で新しく新規に開店しようとか今まで事業をやっていたけれどももう一度ここを乗り越えてという思いがなかなかできなかった方々に対して駅北チャレンジショップはすごく魅力的で、もう一度やってみようという背中を押してくれるような事業をされようとしています。私は新規事業者に対しての空き店舗ですとかそういうものを使った事業をしてもらうためには今一度そういった300万円ぐらいの改装に関わるような支援金のようなものが必要ではないのかと思っていましたのですからお伺いしたわけですけれども

そこについての観点だけもう一度確認させてください。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 実際に今までの流れでいきますと300万円から100万円ということ幅広く使っていただいているという部分と現に使われている皆さんはそれぞれの場面で活躍されているといいますか事業として継続して行っているというところから考えますとある一定程度の効果はあったと思っていますので額の大小はあるかもしれませんが幅広く使われて相談も来ているという状況から考えると皆さん感心を持っておられるという部分があると思っております。金額の部分はそれぞれかけ方といいますか事業の内容によってはもう少しお話の中では出れば良いと思っておられる方もいらっしゃると思いますが町としてはあくまでも広く行っていただくということと今できているから良いということではなくてこれからも考えていくことは必要だと思いますけれどもまずは幅広く行っていただきたいという思いの中でこれからも進めさせていただきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） ほかにございませんか。

4番、貳又聖規議員。

○4番（貳又聖規君） まず私から今回の第2次振興計画です。これは第1次からこの第2次に至るにあたって考え方が大きく変わっているところはあると思います。私の考えではより経営的な視点を持つということであります。要はDMO等の関係がありますけれども稼ぐという視点が足りないと感じております。

個々に質問していきますが資料3、9ページ目、具体的戦略の部分です。まずここでは従来から語られていた観光協会の運営費、補助金関係です。これは観光協会に関わる人件費、これは今までの町との議論の中でいくと今100%であるところを80%にするですとか要は観光協会が自主的に稼ぎ出す力を持って町からの持ち出しを減らす。これがまず一つ大きな経営的な視点なのかと感じております。ですので具体的戦略の9ページ目のところでいくと主な課題のところにはやはりまちの持ち出しの部分です。これは大きな課題だと私は考えております。それが1点です。

そして具体的な部分の道の駅の設置の検討があります。これはやはり今までの計画よりもさらに経営的な視点を持つのであれば、道の駅の看板を持ったときにどれだけの売上が上がるのかというものがなければ議論にならないと思うのです。私は今回やはり前回のコロナの交付金でつくる2,500万の施設もそうですけれども計画がしっかりあってそれをもとに事業を推進していかなければならないという思いがありますのでそういう意味合いも含めて質問しております。そしてかつ周遊促進のためクーポンやスタンプラリー企画の立案、実施とあります。これは私は非常に大事だと思うのです。観光協会が従来やっているクーポンがあります。あとはコロナの交付金等を使っての周遊の展開があります。それは企画の立案も実施も大事なのですがもう一つ大事なのはそれによって各飲食店や宿泊施設にどれだけ恩恵があったのかということなのです。そのクーポンを使ってお客様がポロトミンタラに行くと、観光インフォメーションセンターでそのクーポンを手元に持ったと、そこで行こうと思わなかった施設にお金を落としているわけです。そのような効果測定がしっかりとこの中に入らなければならないと思います。ですから企画の立案、実施そして検証という形でやはり入れなければPDCAサイクルはうまく回らないだろうという思いです。

それから10ページ目です。方針2の魅力ある地域資源の活用でございます。仙台陣屋資料館の関係が2-1に載っています。これは資料館や史跡の活用促進というよりも、これも大事ですけどもやはりここでお金を稼ぐということを私はずっと一般質問でも言っておりますけれども仙台陣屋資料館に教育旅行生などに入らせていただいて実際にどれだけの入館があってどれだけの入館料があると、そこでまた施設整備にかけるような考えをぜひ持っていただきたい。それから飛生芸術祭などの芸術文化イベントのPR、連携事業の検討とありますがもうまさに今、虎杖浜の写真展ではありませんが団体ツアーが入っているのです。そこは白老町の観光の武器になりますからそれはしっぴかりと入れて観光入込も含めて実際に経済効果がどうなのかということも取り入れるようなものにしていただきたいと思います。

それから11ページ目、方針3の3-1であります。主な課題として観光ガイド事業の継続実施に向けた事業PR支援と観光ガイド人材の育成支援とあります。この観光ガイド人材の育成は4年前、5年前からやっております。これは層が2つになるということです。要はこれから育成を受けなければならない人材の方々がしっぴかりと4年、5年の中で人材育成事業で実際にガイドセンターもそうですけれどもお客様も受け入れているというところでいくと皆さんはプロです。そういった意味でいくと使い分けが必要なのです。ガイド育成をする、もっと受入体制を強化するとともに実際にガイドとして活躍されている方々の場をつくり出して実際にバスツアーも昨年12月に写真展も含めて入っておりますからそういったものでお金がいくら落ちたのかというような形の計画にしなければならないという考えであります。

続いて12ページ目、4-2にはキャンプ場のことが記載されております。キャンプ場はコロナ禍にあってお客様がかなり増えています。ここでまちに確認したいのは今、白老町内にあるキャンプ場への入込数ですとかここが大事なのですけども例えばブウベツのキャンプ場ですとかここはお客様が白老牛ですとかバーベキューの食材を買ってそこで食べるわけです。そういう効果もあるわけです。その辺も視野に入れておられるのかどうかここが大事です。

そしてこれを踏まえて資料4になります。5番の本計画における目標値です。これは1つ今までの計画を踏襲していますからこの目標値は継続でいいのですが私は先ほどのお話を踏まえた時に目標値はもっと具体的なものがいいと考えています。例えば5点つあります。1点は町からの持出補助金、観光協会の人件費等が今実際にいくらあって目標値はこれぐらいなのだ、自ら稼ぎ出すお金はこれくらいですよというのがしっぴかりとなければいけないというのが1点です。そして2点目です。ポロトミンタラの売上です。道の駅にステップするにしても現在のポロトミンタラの売上が何千万円あってこれが目標値いくらになるという明確な経営的視点による数値が必要だと私は考えます。それから3点目です。これは今、観光協会さんが実際にやっているポロトの森です。それから町が管理している陣屋資料館の関係です。これの入場者数、入館者数とともに金額ベース、これもしっぴかりとあった方がよろしいかと思えます。それから4点目であります。ガイド育成によってプロの人材になられた方がおられます。ガイドセンターがございまして。このガイドセンターのツアーの受入実績が昨年11月、12月では何件かありますからこれがどんどん増えていくという形にならなければならないと思うのです。そういった意味では費用対効果としてみれば今まで4年から5年をかけて交付金を入れながら人材育成しています。そこでは何千万円というお金を入れたわけ

です。そしてそこでプロになったガイドの方々がこれだけ外貨を稼いでいるという1つがなければ難しいと思いますのでそれをぜひ考えていただきたいのです。それから5点目が先ほど言ったキャンプの実績です。これは入場者とともに地域の食材を購入したり日帰り温泉に入ったりします。そういったことも含めた視点が必要かと思えます。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） たくさん頂戴いたしましたのでもし漏れていたら申し訳ございません。改めて追加でご答弁させていただければと思います。

9ページ目でございます。周遊策の立案、実施、検証の話がございました。まさしくそのとおりでしてPDC Aサイクルを回す時には立案、実施、計画のフィードバックをする部分です。それをさらにどうするかというところの一つの指標となる部分でございますのでその部分が抜けておりましたのでそこは次の策定委員会の中でこういうご意見を賜って入れさせていただきたいという方向で持っていきたいと考えてございます。

それから10ページ目でございます。仙台陣屋資料館の稼ぎの部分でございます。今、仙台陣屋資料館についても入館者数それからいくら収入として得たというところは押さえさせていただいてるところはございます。そういった部分をどういう形で表現するかということは中でももう少し整理させていただいてその辺も十分に考えていきたいと思えます。

それから11ページ目です。ガイド人材の話でございます。ここの部分につきましては貳又議員が言われたことは実は我々も同じ思いでやっております、実際にガイドをされた方たちは言われたとおりにある種プロでございます。そういった方達を初級者向けの講師にして、技といいますかそういったスキルを次の初級者コースの方に伝えていくような2つの層を持って回していければこれからそれが継続していくのではないかと考えておりますので議員の言われた視点は今我々が取り組もうとしている部分でございますのでそういったところを検証も含めてさせていただければと思っております。

それから12ページの4-2のキャンプ場の入込の関係でございます。今それぞれ入込調査をやっている中においてもそれぞれ入込調査でどれだけ入ったという部分の押さえはさせていただいてますけれどもいわゆるキャンプ場を利用したお客様がお風呂に入った、食材を買ったという部分の消費動向が押さえきれない部分があるかと思えますのでそれをこういう視点を持ちながら進めていくということを考えていきたいと思っております。

それから最後が資料4の指標の関係でございます。5番目の本計画における目標値の中でそれぞれ第6次総合計画それからまち・ひと・しごと創生総合戦略における目標値の別として本計画独自の目標値の中に5点ほど入れたらどうかという部分がございました。言われた部分で必要だというところが多々ありました。例えばポロトミンタラの売上。ただ売上がこれだけありましたという報告だけでいいのかというやはりある程度目標というのではないですけれどもこういうものを持っているという視点ですとかそれからポロトの森等の入場者数です。今、実際にポロトの森ですとかガイドセンターと観光協会と連携して外から来た団体ツアーのお客様とかをどのようにお迎えしてどのようにガイドするかということも協議してお金の部分のやり取りもまさに協議しているところですのでそういった入場のお金の部分、入場者数そういった押さえもさせていただく必要があるか

と思っております。それに変わってですからガイドセンターも今まで町の事業として取り組んでおりますのでそういった受入実績等も目標値に持てるのはいいのかと思いますのでこの辺もそういった視点を持ちながら検討させていただきたいと思います。簡単ではございますが以上でございます。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

○4番（貳又聖規君） 説明ありがとうございました。足りなかった部分で確認ですが資料3、10ページ目の文化芸術の関係です。私が何を言いたいかといいますと飛生芸術祭などの芸術文化イベントのPRというよりは実際に虎杖浜における写真展ですとか非常に可能性が高いものですからそこをきちんと打ち出すことです。今、国は文化芸術振興法と観光とをセットにして進めているくらいですから時代を受け止める中でいくとこの計画の中にはその辺も含んだ表現を頭出しすべきだと思いますのでその部分が1点です。

それから最後です。やはりこれは観光協会の運営費、補助金の関係です。これは非常に大きな問題だと思いますのでその辺の考え方、これが計画に載せられないというところであればそれはよしとして、ただその補助金のベースです。これは満額を町からということではなくてやはりそれはDMOになるというところでいくとそこはとても大事なところだと思いますのでその辺の考え方だけ確認させてください。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 今議員から2つありました。まず1つが虎杖浜の関係の写真展という形なのですけれども新しい試みだと受け止めています。ああいったことが町内で開催されるということが非常に大事なことだと思いますので引き続き芸術文化という部分については町もきちんとした認識を持ちながら取り組んでいきたいと思っております。

それから観光協会の運営費の関係ですけれどもこれはDMOを取得した中で自ら稼いでできる限り人件費を圧縮していくことは非常に大事なことだと思っています。ただ運営費の目標値をどうするというのはまた別問題で考えさせていただければと思います。そういったことも含めて運営費につきましては今後も観光協会とやり取りをしながらきちんとしていきたいということでもあります。それから目標値の中でキャンプの関係が出ていましたのでどういった購入がされてどういうふうにまちに反映してくるのかというのは今時点では分からないところがありますというのは資料を集めながら検討させてもらいたいということです。

○議長（松田謙吾君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松田謙吾君） 質疑なしと認めます。それではご意見等がございます方はどうぞ。

8番、大淵紀夫議員。

○8番（大淵紀夫君） 1点だけお尋ねしたいのですけれども先ほど創業に関する補助の関係がありました。観光、商業に関わる部分だけで結構なのですけれども例えば地域おこし協力隊の方々が起業する時に国から特別交付金で100万円がきます。当然それプラス、今の氏家議員の発言にあったように100万円というのは無条件ではないけれども対象になる可能性は高いけれどもどうも先進的なそういう取組をしている市町村ではこれにまちが追加して起業ができるようにしているのです。それが差別のようになると困るのですけれどもそういう点で、私は地域おこし協力隊の人たちが創

業する、起業するということはとても大切ですしそういう方向付けで動いているのです。ですからそこに対する独自の町としての施策、それと今の民間の方が起業をする時の100万円の施策、その整合性を取りながらそこで明らかに地域おこし協力隊の方々に対する優遇措置がないと起業はなかなか特に若い方、ここに出ているように一定程度経験を積んでいる方はいいのです。けれど若い方はなぜ地域おこし協力隊の方々が白老町を離れるかというやはり資金面で起業ができないのです。ですからそういうことに対する政策的な施策を私は考えるべきではないかと思っているものですからその点だけお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 今、大淵議員からお話がありましたことなのですけれども地域おこし協力隊がそれぞれの期間が終わって白老町で起業して活躍してもらいたいという意味も含めた今の今までやってきたことです。当然残っていただきたいという気持ちはあります。それに対してプラスアルファという部分なのですけれどもこれは今の段階でそういうこととお答えできない部分ではあります。それで今後の動向ですとかか動きを見ながらその辺は判断していきたいと思っておりますので課題のひとつということで受け止めさせていただければと思います。

○議長（松田謙吾君） 8番、大淵紀夫議員。

○8番（大淵紀夫君） それで理解します。ただ要するに町は今、氏家議員の質問に対して答えた100万円が追加されるというのは無条件では恐らくないと思うのです。条件がなくてはだめです。ですからそういうことと地域おこし協力隊の補助金の、良い意味での差別化をしないと起業はなかなか難しいというようになると思うのです。そこは十分に考慮した上で検討していただきたいと思いますがその点をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 地域おこし協力隊との差別化という部分だと思います。地域おこし協力隊の方については残ってもらいたいという一つの目標がありますので残るためには何かをしなければなりません。そのことに対する支援というのはどうなのということだと思いますのでそれは先ほどもお答えしたとおりその部分についてはもう一度検討させてもらいたいと思います。

○議長（松田謙吾君） ほかにありませんか。

2番、広地紀彰議員。

○2番（広地紀彰君） 1点だけです。総合戦略との整合性の観点で情報発信について1点お伺いしたいと思います。資料3の中でもしっかりその辺りは捉えている部分は見受けられましてSNSの活用ですとかフェイスブックやホームページでの情報発信というのは既に記載されています。その部分については大変結構なことだと思うのですけれども総合戦略の方にはさらに一段踏み込んでありまして資料6の21ページです。情報発信の強化の中で多くの観光客の誘客の関係でSNSによる情報発信を強化とあるのです。SNSの活用ということは明確にうたわれています。翻って資料3の6ページにあります現状の課題把握の中で中段にこのように書いてあります。近年の観光客向けにはスマートフォンによる検索対応が必要でありホームページやSNSの活用、ここが重要だと思うのですけれども飲食情報等のサイトへの掲載によって周知することのほか最新情報を更新していくべきでだと。私も同感でありまして最近私も知らなかったのですけれども北吉原、萩野の奥

の方にそば屋さんが開業して土日、地域住民の方から札幌ナンバーの車の通行量が多くなって困るということで看板の設置を頼まれたのです。それくらい交通量が増えました。後は竹浦の奥でピザ屋さんが開業したとか私も把握しきれていないような起業の動きもこのコロナ禍の中においても広がっております。こういった中で虎杖小学校の教育の取組の中で地域の魅力を探そうという取組がありましてそこで子どもたちが参考にしていただいていたのが評価のサイト、具体的にはトリップアドバイザーとかいこーよという子連れ旅行のための情報提供サイトだとかそういったサイトがあります。そういった部分に対して掲載を支援していく動きが重要だと捉えています。ここの記載の内容はお任せしたいと思うのですけれどもこういった観点が滞在時間の増加だとか例えば中小企業の振興、事業者に対するフォローアップの積極的実施というのも明記されておりますので記載の仕方については私はこだわりません。ただそういった情報発信、特にネット上でのその強化というのはしっかりと打ち出すべきだと思うのです。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 広地議員がおっしゃったとおり皆さんが気づかないところのお店にお客さんが足を運んだりという事例も私も少ないながら聞いておりますけれどもやはりSNSの活用は特に若い方が使われているという現状がございますのでその方達もいずれ年齢層が上がってくることによって全世代型でこれからSNSがますます使われていくだろうということが十分考えられます。その中で重要性は我々としても認識しておりますので今回のホームページのリニューアルもそうですけれどもさらに更新頻度も最新情報をできるだけ早くやっていくことの重要性というのを我々が観光の入込に大きく影響するものだと思っておりますのでそこは力を入れていきたいと思っておりますのでこの6ページの書きぶりがもう少し考える必要があるのかと思っておりますけれども認識としてはそういったところも我々ばかりではなくて観光事業者もそうですし観光協会もそのような考え方でおりますのでそういった部分の視点を持ちながら進めていきたいという部分とここの表現を再考させていただきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 2番、広地紀彰議員。

○2番（広地紀彰君） これで終わりにします。答弁で理解しました。記載の内容についてもこだわりはありません。また新商品開発の関係で情報を発信されて、例えば新聞報道等で地元産品で新商品の開発に成功された事例ですとかが度々見受けられます。こういったことが白老の商業振興に重要な位置付けに、これから350万人を目指していく観光の町を標榜する中において大変重要な取組が民間事業者にも広がっているのかと実感しております。こういったことから考えてもやはり情報発信、個別の事業者、若い方がやれば自分でできる方もいますけど特にネット対応というのは各個店の努力に任せてもなかなか厳しい部分が正直見受けられます。ですので行政の力でしっかりと情報発信していくことが求められると思います。その辺りをよろしくお願いしたいと考えています。

○議長（松田謙吾君） 工藤産業経済課長。

○産業経済課長（工藤智寿君） 本当に観光のみならずとは思いますが情報発信というのはこれからますます重要になってくるだろうと思っております。国でもDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めていますが、まだまだ町民の中にはそういったものが浸透してないところもありますので様々な場面で情報の発信ですとかそういった部分の行政として取り組める部分、それか

ら促すようなことも含めてできればと考えておりますし我々も先ほどと同じような答弁になりますけれども最新情報をいち早く届けられるような体制を構築していくことが大事だと思っていますのでそこはしっかりとやっていきたいと思っています。

○議長（松田謙吾君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松田謙吾君） 以上をもって白老町商業観光振興計画策定についての協議を終了いたします。

◎閉会の宣告

○議長（松田謙吾君） 以上をもちまして、全員協議会を閉会いたします。

（午前11時21分）